

T-751 取扱説明書

T751-z-2107

お買い上げありがとうございます。
ご使用前に本取扱説明書をよくお読みいただき、正しくお取り扱い下さいませようお願い申し上げます。
本取扱説明書はお手元に保管して下さい。

- 印刷による制限のため本取扱説明書中の図が実際の表示と異なる場合があります。
- 本製品によって生じたいかなる支出・損益・その他の損失に対して何ら責任を負いません。
- 本取扱説明書を製造者の許可なく変更・複製することを禁じます。

製品仕様 (改良のため予告なく変更する場合があります。)

- 時間精度: 平均月差 ±30 秒以内 (気温 25°C で使用した場合) (電波時計による時刻修正を行わない場合)
- 表示精度: ±1 秒以内 (電波受信による時刻修正の直後)
- 使用温度範囲: 0 ~ +40°C ※結露なきこと (外觀 / 機能に支障無く、連続使用可能な温度範囲)
- 使用推奨電池: 単 4 形アルカリ乾電池 (LR03 1.5V) 2 個
- 電池寿命: 約 12 ヶ月 (単 4 形アルカリ乾電池 2 個を使用し、1 日にアラームを 30 秒、ライトを 1 回使用した場合)
- 電波受信: 40kHz/60kHz のどちらか受信しやすい電波を受信し、現在時刻に合わせる
 - 自動受信 (最多 6 回 / 1 日)
 - 手動受信
- 時刻表示: 12 時間制表示、または 24 時間制表示
- カレンダー表示: 2000 年 1 月 1 日 ~ 2099 年 12 月 31 日 (フルオート)
- 温度計: 表示範囲 -9.9 ~ +49.9°C ※ -9.9°C より低いと LL.L、+49.9°C より高いと HH.H を表示
精度 ±2°C (10 ~ +40.0°C の範囲)
- 湿度計: 表示範囲 20 ~ 95%RH (%RH は相対湿度の単位です) ※ 20%RH より低いと LL、95%RH より高いと HH を表示
精度 ±5%RH (25°C、30 ~ 80%RH の範囲)
- アラーム: 電子音 (1 分間オートストップ)
- スヌーズ間隔設定: 5 ~ 60 分 (無制限繰り返し可能)
- ライト: 残照機能 (約 5 秒間)
- 電波受信状況表示

温度湿度表示機能について

- 本製品は工業用(業務用)計測機器として使用する目的で製造されたものではありません。温度湿度表示機能は、センサーが本体内部に設置されているため、表示が安定するまでに時間がかかる場合があります。
- 他の製品、温度計・湿度計との誤差が発生する場合があります。
- 使用温度範囲を超えた場合、故障の原因となりますので、ご注意ください。

液晶表示について

- 液晶表示は角度により見えにくくなります。
- 温度が低くなると液晶表示の反応が遅くなることがあります。
- 0 ~ +40°C の温度範囲を超えると、液晶表示が見えにくくなる場合があります。
- 液晶表示板は 5 年を過ぎるとコントラストが低下して、表示が見えにくくなる場合があります。
- 液晶表示が部分的に黒くなる場合がありますが、静電気による一時的な現象です。しばらくそのままにしておくと、元に戻ります。

電波時計について

電波時計とは
標準電波を受信して自動で時刻を修正する機能を持つ時計です。
※電波を受信できない場合は、内蔵クォーツの精度で計時します。

標準電波とは
情報通信研究機構 (NICT) が運用している時刻情報をのせた電波です。標準電波送信所は、福島県の「福島局: おおたかどや山標準電波送信所」と、佐賀県と福岡県の県境にある「九州局: はがね山標準電波送信所」の国内 2 か所にあります。
※標準電波の時刻情報は、およそ 10 万年に 1 秒の誤差という精度の「セシウム原子時計」によるものです。

標準電波の送信停止について

標準電波は毎時 15 分と 45 分から各 1 分間は一部の時刻情報の送信が中断されます。また、送信所の定期点検や落雷などの影響により停波 (送信停止) することがあります。標準電波の送信状態については「情報通信研究機構」のホームページをご覧ください。

日本国外でのご使用について

本製品は、日本の標準電波以外は受信できません。海外で使用した場合、ご使用になる場所の条件により日本の標準電波を受信したり、ノイズにより誤った日時を表示する場合があります。あらかじめご了承ください。

電波の受信範囲について

送信所からおおむね半径 1000km とされています。

※電波を受信できない場合は、内蔵クォーツの精度で計時します。



電波を受信しにくい環境

次のような場所では受信できない場合や誤った時刻を表示することがあります。

- 工事現場、空港の近く、交通量の多い場所など電波障害の起きやすいところ
 - ビルの中、ビルの谷間、山など電波を遮るものの近く
 - 鉄筋、鉄骨の建物の中や地下
 - 金属製の雨戸やブラインドの近く
 - 高圧送電線、ラジオやテレビの送信所の近く
 - 自動車、電車、飛行機などの中
 - 家電製品や OA 機器、蛍光灯などの照明器具の近く
 - スチール机などの金属製家具の上や近く
 - 朝・夕の時間帯や雨天のとき
- ※電波障害などにより誤った電波を受信し、時刻を誤表示する場合は、リセット操作を行い使用する場所を変更してご使用下さい。

標準電波についての詳しい情報は「情報通信研究機構」のホームページ内の「日本標準時グループ」を参照して下さい。

情報通信研究機構 ホームページアドレス <https://jy.nict.go.jp>

受信の状態について (電波受信状況表示と受信マーク)

■受信中 (電波を探している状態) です。

電波状況が悪く 受信できない環境

※受信中の設置場所の電波状況を表示します。

■受信に成功して時刻/日付修正を終了しています。
※次の受信開始まで点灯し続けます。

■受信に失敗して終了しています。
※次の受信開始 (点滅) まで、表示されません。

自動電波受信機能について

本製品は、時刻を修正するために、毎日、内蔵プログラムにより自動電波受信を行います。電波を受信できない場合、内蔵クォーツの精度で計時し、次の自動受信時間に再び電波受信を行います。

手動受信について

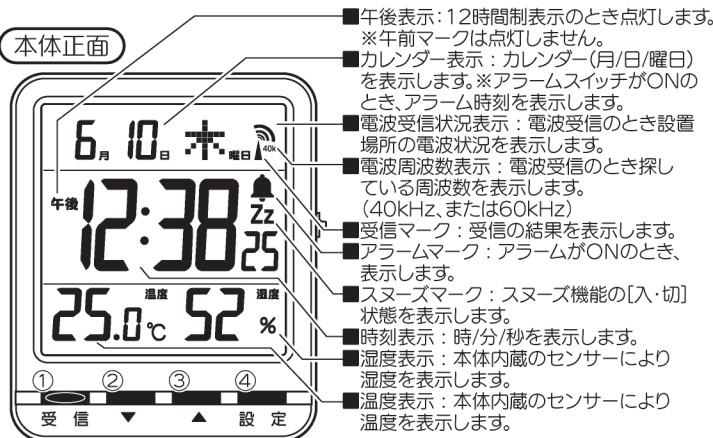
電波受信が終了 (受信マーク が点灯、または消灯) しているときに受信ボタンを 3 秒以上押し続けると、電波受信を開始します。
※電波受信中に受信ボタンを 2 回押しすと電波受信を終了します。

電池の交換について

- 電池容量が少なくなると、液晶表示が薄くなったり、歪んだり、アラーム音が小さくなったりします。このような場合は速やかに同じ種類の新しい電池に 2 個同時に交換して下さい。
- ※古い置き電池を使用した場合、乾電池に示されている「使用推奨期限」や保管状態により電池寿命が短くなる場合があります。

リセット操作について

電池フタを開けて単 4 形乾電池 2 個を電池ホルダから外して下さい。電池を電池ホルダから外した直後は、静電気や内部に残っている電流により誤動作 (誤表示) する場合がありますため、液晶表示に何も表示されていないことを確認してから再度電池を入れて下さい。



- ①[受信ボタン]手動受信と受信停止するときを使用します。
- ②[▼ボタン]設定操作中に1回押すごとに項目を減算します。
- ③[▲ボタン]設定操作中に1回押すごとに項目を加算します。
- ④[設定ボタン]時刻設定とアラーム時刻設定に使用します。

注意

※電波受信中(受信マークの点滅中)は手動による時刻設定はできません。
※設定中の点滅は約60秒以内です。この間に操作を何もしないと点滅が終了して通常表示に戻ります。

- ①アラームスイッチをONにすると、カレンダー表示がアラーム設定時刻に切り替わります。
- ②設定ボタンを3秒以上押し続ける。
→アラーム時刻設定モードに入り、[時]部分が点滅します。
- ③▲ボタン、▼ボタンを押して[時]を設定する。
- ④[時]の設定が終了したら、設定ボタンを押す。
→[分]部分が点滅します。
- ⑤▲ボタン、▼ボタンを押して[分]を設定する。
- ⑥[分]の設定が終了したら、設定ボタンを押す。
→[スヌーズ間隔時間]が点灯します。
▲ボタン、▼ボタンを押してスヌーズ間隔時間を設定します。(5~60分の間の任意の時間)
- ⑦[スヌーズ間隔時間]の設定が終了したら、設定ボタンを押します。
→アラーム設定時刻が表示されて、設定が完了します。
※アラームマーク▲が点灯していない場合、アラームは鳴りません。本書「アラーム機能の使い方」を参照。
※アラーム時刻は[秒単位]の設定はできません。
※12時間制表示のとき、[午前]と[午後]を間違えないように注意して下さい。



アラーム機能の使い方

※電波受信中(受信マークの点滅中)はWAVEボタンを押して受信中止して下さい。

- アラームを鳴らす
通常時刻表示のときにアラームスイッチをONにする。
→アラームマーク▲が点灯し、設定した時刻になると、アラームが鳴ります。
※アラームは鳴り始めから約1分後に自動的に止まります。
- アラームを止める
アラームスイッチをOFFにする
→アラームマーク▲が消灯し、アラーム機能が解除されます。
または、いずれかのボタンを押す。
→アラームが鳴り止まり、翌日の設定した時刻になるまで鳴りません。
※アラームマーク▲は点灯したままです。
- なにもしない。(オートストップ機能)
→アラームは鳴り出しから約1分で自動的に鳴り止まり、翌日の設定した時刻になるまで鳴りません。
※アラームマーク▲は点灯したままです。



止めてもまた鳴るスヌーズ機能とライト機能

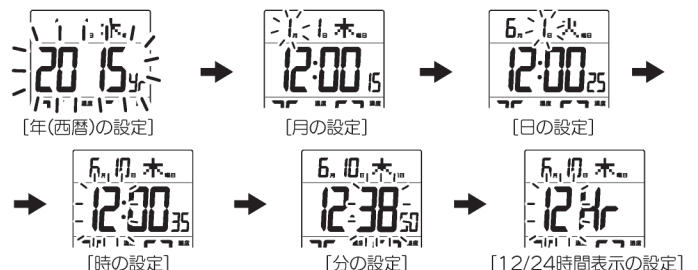
- アラームが鳴っている間に本体上面のスヌーズ/ライトと印刷してある部分に触れると、アラームが一旦鳴り止まり、再び鳴り出します。
※スヌーズ間隔時間は、アラーム時刻の設定時に5~60分の間で任意の時間が設定できます。
※スヌーズ機能中は、スヌーズマークZzが点滅します。
※スヌーズ機能は、何回でも繰り返すことが出来ます。
※アラームが再び鳴らないようにするには、アラームスイッチをOFFにしてアラームマーク▲を消灯させます。
※スヌーズ機能が動いている間にSNOOZE/LIGHTボタン以外のボタンを押すと、スヌーズ機能が解除され、スヌーズマークZzが消灯します。
- 本体上部のスヌーズ/ライトと印刷してある部分に触れると、ライトが約5秒間点灯します。

手動で時刻を設定する

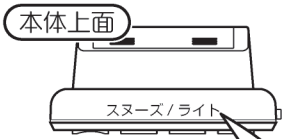
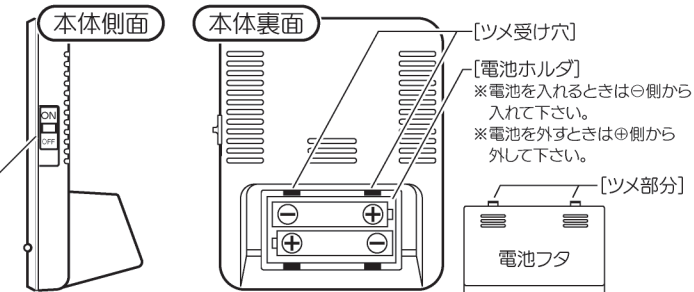
注意

※電波受信中(受信マークの点滅中)は手動による時刻設定はできません。
※設定中の点滅は約60秒以内です。この間に操作を何もしないと点滅が終了して通常表示に戻ります。

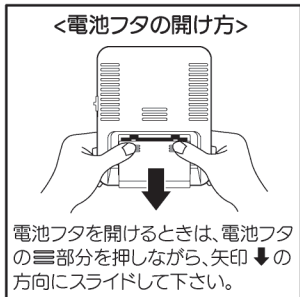
- ①アラームスイッチをOFFにする。
- ②通常時刻表示のときに、設定ボタンを3秒以上押し続ける。
→時刻設定モードに入り、[年(西暦)]が表示し点滅します。
- ③▲ボタン、▼ボタンを押して[年(西暦)]を設定する。
- ④設定ボタンを押すごとに[年(西暦)]→[月]→[日]→[時]→[分]→[12/24時間表示]が点滅します。▲ボタン、▼ボタンを押してそれぞれを設定し、設定ボタンを押して次の設定に進みます。
※[秒]は、[時][分]の設定中に▲ボタン、▼ボタンを押すごとに00秒に設定されます。
- ⑤[12/24時間表示]の設定が終了し設定ボタンを押すと、設定が完了となります。
→点滅が終了し、設定された時刻と日付が表示されて、時刻・日付が表示されます。



※[年(西暦)・月・日]を合わせないと[曜日]は正しく表示されません。



本体上面の[スヌーズ/ライト]と印刷してある部分に触れるとタッチセンサーが反応し、ライトが点灯します。アラームが鳴っている間に触れると、スヌーズ機能を使用する事が出来ます。



ご使用方法

- ①表示ラベルを剥がす。※ラベルを剥がす際に、液晶表示が部分的に黒くなる場合がありますが、静電気による一時的な現象です。しばらくそのままにしておくと、元に戻ります。
- ②電池フタを開けて単4形乾電池2個を⊕の表示に合わせて入れ、ツメ部分をツメ受け穴に差し込み電池フタを閉じる。
→電池を入れるとライトが点灯し、約3秒後に「ピッ」と確認音が鳴った後、液晶面が表示され、電波の受信を開始します。
※受信中は受信マークが点滅します。
※受信には最長14分かかります。



- ③受信の結果を確認する。本書「受信の状態について」を参照。
- 受信に成功すると、受信マークが点灯して自動的に時刻と日付を修正して表示します。
- 受信に失敗すると、受信マークは消灯します。時刻・日付は修正されません。

電波受信ができなかった場合は...

- ①手動で時刻を設定し、朝までそのままにしておく
本書「手動で時刻を設定する」を参照して、現在時刻に合わせて時刻を設定し、一晩そのままにしておく。
一般的に、夜間は電波状態が良くなるので、一晩そのままにしておく、受信できる可能性が高くなります。
- ②設置場所を変える/受信をやり直す
本書「電波時計について」の「電波を受信しにくい環境」と「手動受信について」を参考に、設置場所を変えて、再度、受信をさせる。
※電波を受信できない場合は、内蔵フォーツの精度で計時します。
- ③手動で時刻を設定する
電波を受信できない場合は、内蔵フォーツの精度で計時します。
本書「手動で時刻を設定する」を参照。